

# 『日中台のあいだの 〈移動〉と〈応答〉 ～ひと、メディア、文学～』

【時間と地理の交差したシークエンスを手し、東アジアに生きる人間と地域の現在を考える試み】

日 時:2013年1月31日(木)16:00~20:00

会 場:東京外国語大学府中キャンパス

留学生日本語教育センター「さくらホール」

発表者:

劉振生(大連民族学院教授)

近代日本人作家と中国——夏目漱石、中島敦の「満鉄」とその大連像

佐々木宏(時事通信社 台北特派員)

日台メディア最前線——日本と台湾、台湾と中国

周飛帆(千葉大学准教授)

中国人移住者のマージナリティとハイブリディティ

——人の移動から文化の共存を問う

司 会:橋本雄一(東京外国語大学准教授)



会場⑨:留学生日本語教育センター1階 さくらホール

◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ  
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分(JR新宿駅から約40分)

◆京王電鉄「飛田給」駅北口より  
多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車



## 日中台のあいだの〈移動〉と〈応答〉 ～ひと、メディア、文学～

日時: 2013年1月31日(木) 16:00～20:00

会場: 東京外国語大学府中キャンパス 留学生日本語教育センター「さくらホール」

【時間と地理の交差したシークエンスを手に、東アジアに生きる人間と地域の現在を考える試み】

### 近代日本人作家と中国——夏目漱石、中島敦の「満鉄」とその大連像

劉振生(大連民族学院教授)

日露戦争後、中国東北地方(旧満洲)の大連地域は日本の植民地「関東州」となり、外交官や商人はもとより、多くの新聞記者や作家、観光客らが行き来するようになる。作家ではとくに夏目漱石、中島敦らの大連体験と関連テキストが「満鉄」(1906年設立の南満洲鉄道株式会社)とも係わって注目され、日本国内外に一定の影響を与えたと言えよう。これらの影響は当時政府の政治、経済、軍事、文化政策の実施に従って、近代日本人の精神世界において更に融合・発酵させられ、20世紀前半の日本政府による大陸政策(大陸移民も含む)の推進に寄り添った。その一方、20世紀後半の日本人による海外への移動や定住をめぐる歴史や文化、対外意識といった社会的・精神的側面がどのようであったのかを証言する資料として再発見が求められている。近代日本人作家と大連との往来を考える一方、ナショナリズムないし帝国主義の時代に日本人のインテリが中国及び東アジアに対してもった認識を考察したい。

### 日台メディア最前線——日本と台湾、台湾と中国

佐々木宏(時事通信社 台北特派員)

現在、日本のメディアは新聞・テレビ・通信社あわせて11社が台湾に特派員あるいは現地スタッフを派遣し、日々報道に従事している。これだけの数の報道機関が台北に支局を置くのは国・地域別で日本だけである。一方、台湾のメディアは6社が日本に支局を置く。日台メディアが互いを重視していることの表れと言える。ただ、台湾メディアによる日本報道は、政治・社会・文化・芸能・生活など多岐にわたり、海外ニュースの中では日本関連がずば抜けている。例えば2011年の東日本大震災の際は、テレビ局は震災発生後十数日にわたってほぼ24時間体制で関連のニュースを伝え続け、台湾人の日本に対する関心の高さはメディア報道にもうかがえる。翻って日本メディアによる台湾報道は政治分野に偏ってニュース自体も少なく、「台湾は日本に片思いをしている」と台湾の人びとが唱えるゆえんである。1990年代からの報道の自由化と発展は、台湾メディアに経営や政治報道の中立性などの課題ももたらし、経済力をも背景にした中国側によるメディアコントロールといった問題も顕著になっており、東アジアのメディア事情は今大きな転換を迎えている。

### 中国人移住者のマージナリティとハイブリディティ——人の移動から文化の共存を問う

周飛帆(千葉大学准教授)

自他文化の衝突と応答というテーマを、中国人移住者という視角でたどる。横浜などに居住する華僑や、1980年代以降中国本土から来日し日本に居住している人たち。この移住者にはしばしばそのマージナリティ(境界性)が注目されてきた。たとえば彼らのエスニシティやアイデンティティは、「中国」と「日本」という対立項から選択的に取り入れられると認識される。それは、彼らが置かれている周縁的・差別的構造を問う方法としては時代的な意義を持ったが、文化を静的にとらえる本質主義的文化観を前提にしている。異文化やその社会とのつきあい方を、既成のものに対する順応とのみ捉えることは、移住者の主体性を無視するだけでなく、ホスト社会と移住者の双方が衝突しながら調和する文化のハイブリディティを軽視する危険性がある。

日本社会における最大のエスニックグループである中国人移動者に着目し、家庭における教育とアイデンティティ形成、エスニックコミュニティにおけるネットワーク利用などの諸活動から、彼らが定住に至るまでの現状と問題を整理し、多文化共生の課題と展望について考える。